

高文連支部大会 最優秀賞

余市紅志高校演劇部 「^ひ ^{ころも}緋の衣」 (千葉和代・余市紅志高校演劇部 作)

10月2日(土)～4日(月)、小樽市民センター(マリンホール)で行われた「北海道高等学校文化連盟第71回後志支部高等学校演劇発表会」にて、本校演劇部が上演した「緋の衣」(千葉和代・余市紅志高校演劇部 作)が最優秀賞を受賞しました。2年振り6回目の受賞です。

本作「緋の衣」は、明治4年に余市町へ入植した旧会津藩士が、厳しい開墾の末に実らせたりんご「緋の衣」を題材にした演劇です。余市紅志高校を舞台に、「課題研究」という授業で余市のりんごを研究する5人が、発表の練習をとおして成長する様子を描いています。



練習風景



大会の様子

審査員からは、「役者それぞれの思いが形になって脚本ができているように感じた」「エチュード(即興劇)の現実味があり、演劇の可能性を広げてくれた」「セットの作り込み、状況設定が上質」など、高評価をいただきました。他校生徒との合評会でも、「楽しそうに演じているのが伝わってきた」「アクシデントもうまくフォローしていて、とても自然だった」などのコメントがありました。

全道大会は、11月11日(木)～15日(月)、伊達市にて行われます。部長の菅野さんは、「もう一度上演するチャンスをいただけてとても嬉しい。より良いものにできるよう、これからも頑張ってい

きたい」と意気込みを述べていました。

また、支部大会は新型コロナウイルス感染予防のため一般のお客様の観劇は制限されていましたが、12月には余市町中央公民館にて町民公演も予定しています。ぜひご来場ください。

上演にあたって、多くの方々にご協力いただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。



大会を終えて



吉田観光農園様からいただいた緋の衣